

日本バウハウス協会
講演 (オンライン)
2022年5月26日(木)
18:30-20:30



渡邊 大志

Synesthesia Scenery

シナスタジア・シーナリー
— バウハウス黎明期のワイマールとその創造的翻訳 —

1919年にドイツ・ワイマールで産声をあげたバウハウス。
その活動が確立される以前の黎明期に焦点をあてます。
まだデザインが現在ほど「分野」という概念に専門化されていなかった時代です。
W. グロピウスの他にも J. イッテン、O. シュレンマー、M= ナギなど錚々たる教師陣が集い、
固定された分野に位置づけることができない彼らの創作の集合がワイマールの街を
「Synesthesia Scenery(共感覚の風景)」としていました。
その手法と効果をヒントに、現在のバウハウス大学・ワイマール校との協働とそこから展開した
活動をご紹介します。

講師 渡邊 大志氏

1980年生まれ。早稲田大学創造理工学部建築学科准教授。博士(工学)、一級建築士。

2016年より現職。専門は、建築デザイン・都市史。

2019年から2020年まで、フィンランド・アアルト大学客員研究員。リンクアーキテクト株式会社代表。

主な作品・展覧会、「節会」、「レッドハウス」、「モリスハウス」など。主著に、『東京臨海論—海からみた都市構造史—』
(東京大学出版会、2017)、『ひとつなぎの建築』(ADP出版、2021)など。受賞に、東京建築士会住宅建築賞金賞(2021)、
日本フィンランドデザイン協会賞(日本フィンランドデザイン協会、2021)、日本建築学会作品選集新人賞(2022)など。

主催 日本バウハウス協会 (お問い合わせ)

<http://nipponbauhaus.jp>

講演は無料 (Zoom)

講演申し込みは2次元コードまたは下記 URL

<https://forms.gle/frsScVGvBTzdY9tt9>

